

第2報

H17.9.22

平成17年台風14号 川辺川の長期濁りの状況

川辺川上流域の現地調査結果



国土交通省九州地方整備局

川辺川ダム砂防事務所

川辺川では、台風14号の出水に伴い、1週間
を経ても河川の濁りが続いています！

～ 出水後、1週間の濁りの状況を現地調査 ～

川辺川本川、久連子川を除く支流では山腹崩壊が発生していますが、砂防えん堤の効果を発揮し、土砂が捕捉され顕著な濁水の発生は確認されませんでした。

長期濁りは、山腹崩壊や河岸の洗掘などによって、一度に大量の土砂が河川に流れ込んだものが下流へ流出しているものと考えられます。

現地調査日：平成17年9月13～19日

河川の濁度については、ホームページで紹介しています。 <http://www.qsr.mlit.go.jp/kawabe/>

濁度：

川辺川：60度

球磨川：42度

球磨川・川辺川の合流点
(平成17年9月19日測定)

球磨川(人吉)：46度

濁度：水の濁りの程度を表すものです。粘土鉱物であるカオリンが1mg/L含まれた水を1度としています。

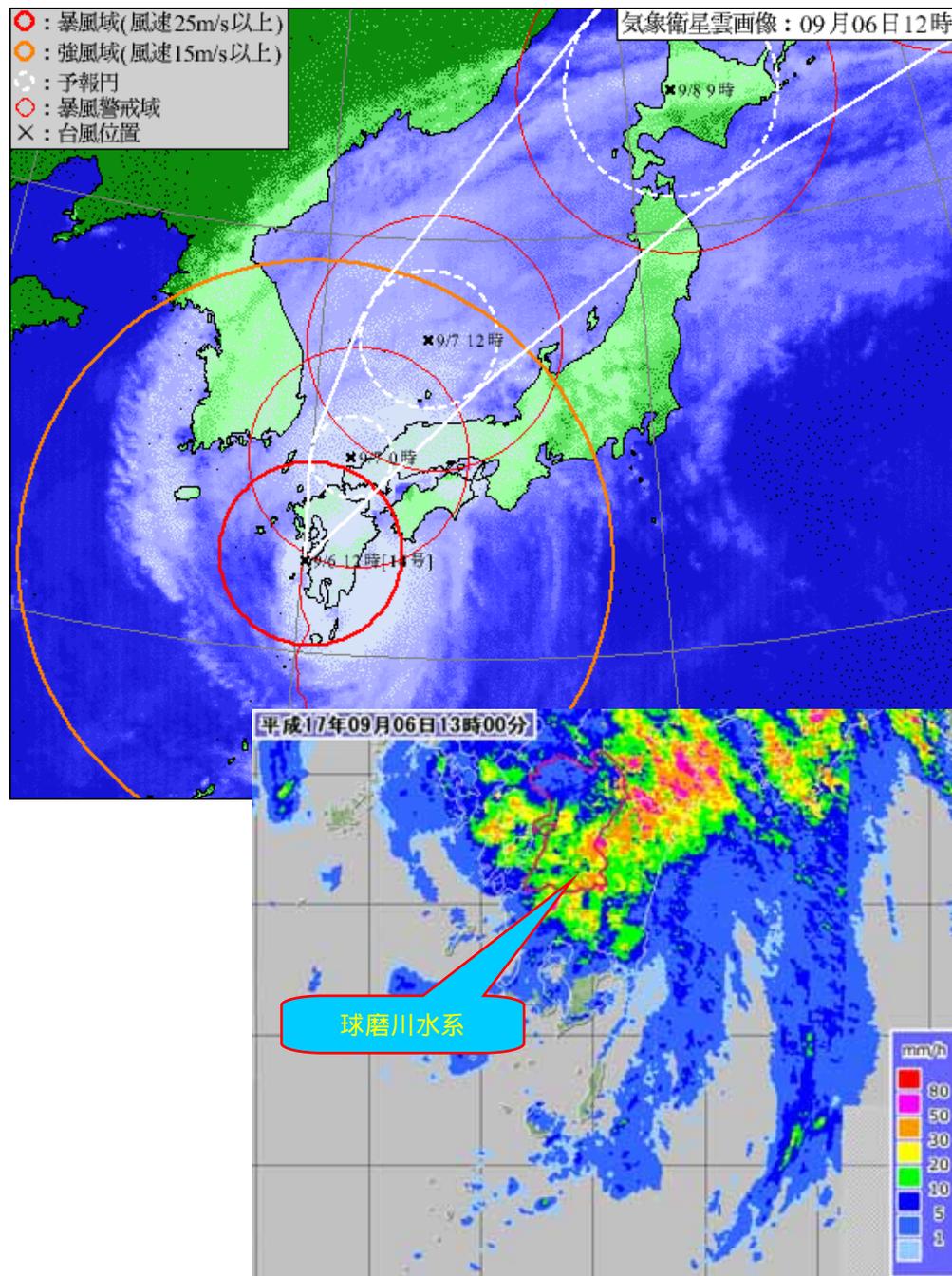
気象概況

大型で非常に強い台風14号は、平成17年9月6日朝から昼前にかけて鹿児島県薩摩半島の西海上から天草付近を通過しました。同日午後2時過ぎには、長崎県諫早市付近に上陸し、佐賀、福岡を縦断、夜には山口県の西海上から日本海に抜けました。

この台風の影響により、球磨川流域の総雨量（注1の平均値（注2は約420^{mm}）に達し、山間部の一部で総雨量は900^{mm}を超えました。なお、人吉地点の総雨量は275^{mm}、八代地点の総雨量は162^{mm}でした。

注1：総雨量とは9月4日の降り始めから7日8時までの総雨量。以下、同じとします。

注2）総雨量の平均値は流域内23箇所の雨量観測所の総雨量の単純平均値。

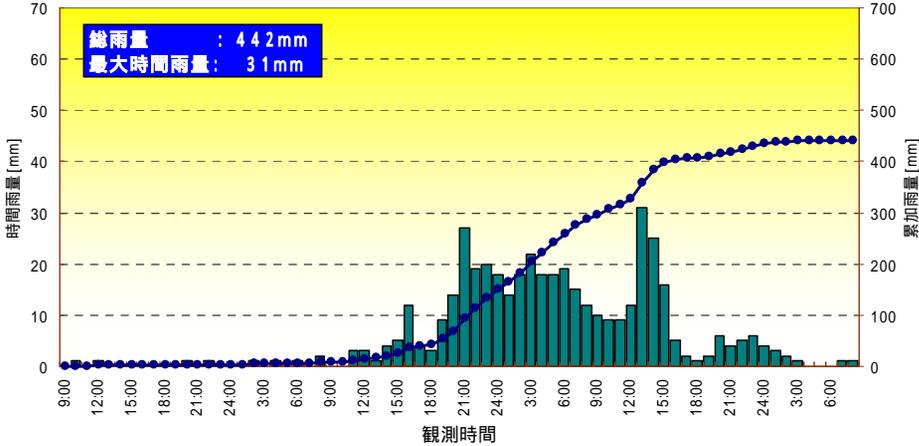


川辺川上流域の降雨状況

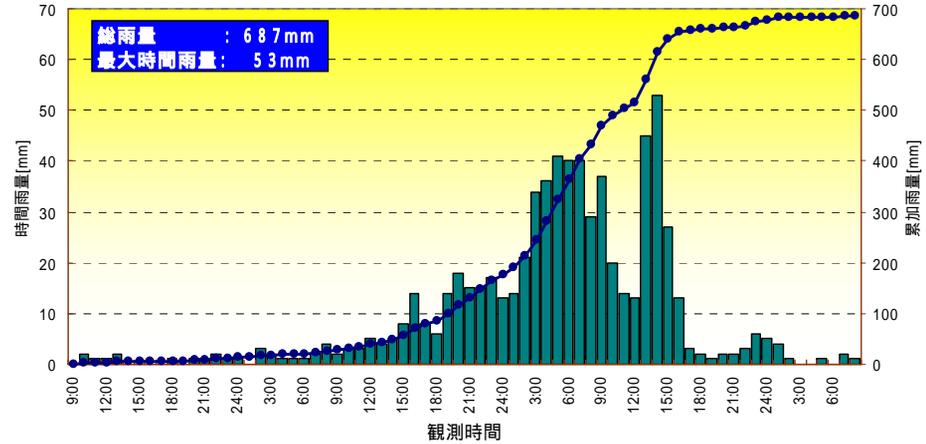


7日8時現在の雨量状況
 (上段は7時~8時までの時間雨量、
 下段は降り始めからの総雨量)

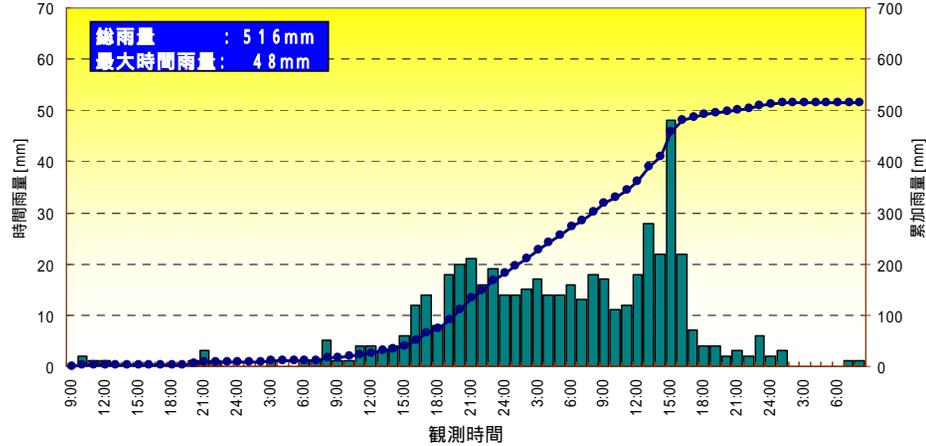
久連子雨量



開持雨量観測所

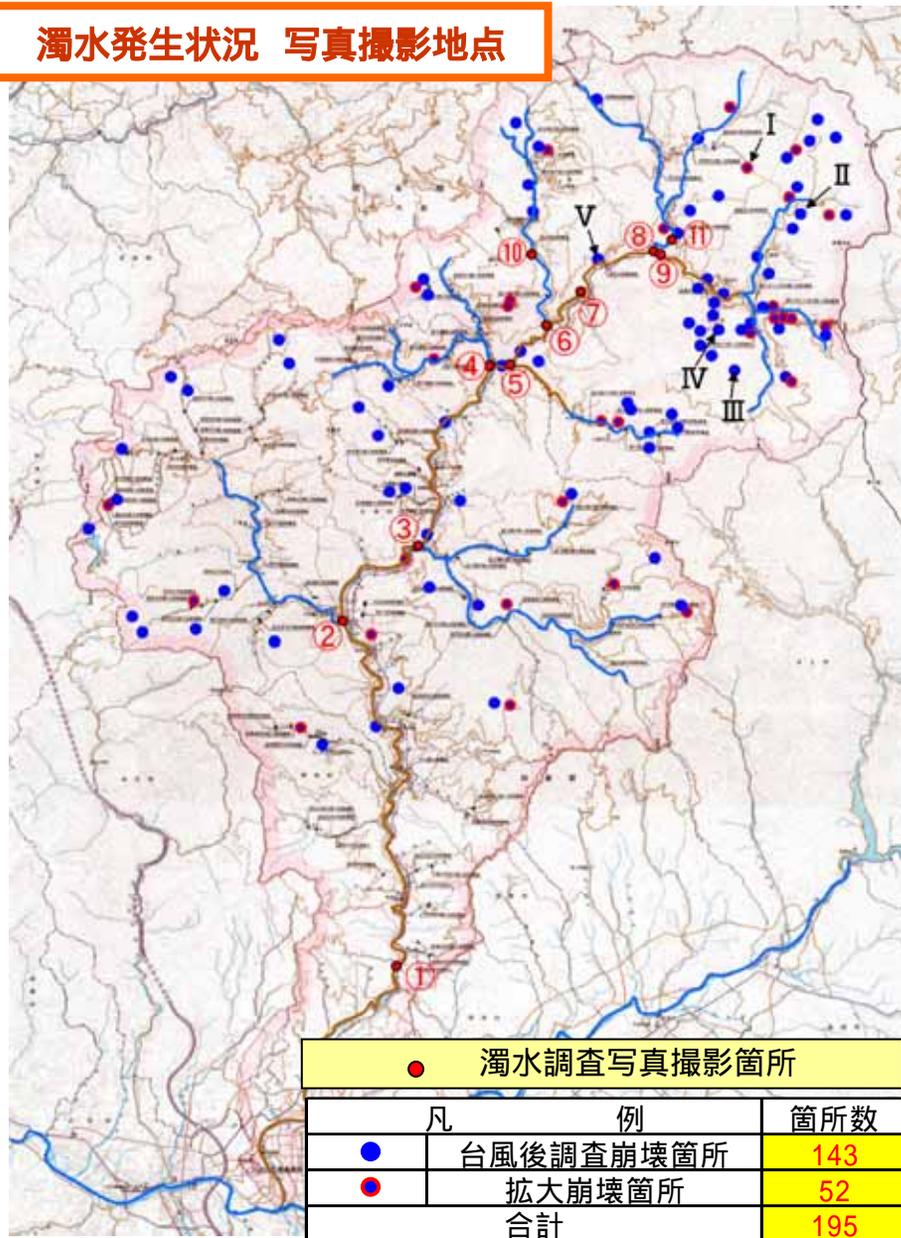


梶原雨量観測所



川辺川の源流域（八代市泉町縦木）と久連子川の下流から顕著な濁りとなっています。

濁水発生状況 写真撮影地点



川辺川(平川橋)

H17.9.13 15:13 撮影



川辺川・五木小川
合流点

H17.9.13 16:18 撮影



* 山腹崩壊箇所については、今後の調査により変更する場合があります。

川辺川・竹の川 合流点

H17.9.13 16:36 撮影

川辺川
竹の川

川辺川・小鶴川 合流点

H17.9.14 14:38 撮影

小鶴川
川辺川

川辺川・久連子川 合流点

H17.9.14 15:12 撮影

久連子川
川辺川

川辺川・小原川 合流点

H17.9.14 12:49 撮影

川辺川
小原川



桂橋下流

H17.9.14 12:26 撮影



葉木川合流点

H17.9.14 13:22 撮影



H17.9.19 撮影



朴木橋右岸崩落状況

* 崩落した土砂は川に流れ込んでいます。

川辺川・葉木川 合流点

H17.9.14 13:20 撮影

葉木川

川辺川

吐合橋上流

H17.9.19 14:13 撮影

川辺川

小原川 (小原砂防えん堤下流)

H17.9.14 11:33 撮影

小原川

葉木川 (葉木川第3砂防えん堤)

H17.9.14 13:28 撮影

葉木川

* 砂防えん堤により土砂を捕捉

桜谷川

H16年崩壊の増破



縦木川



西の内谷川



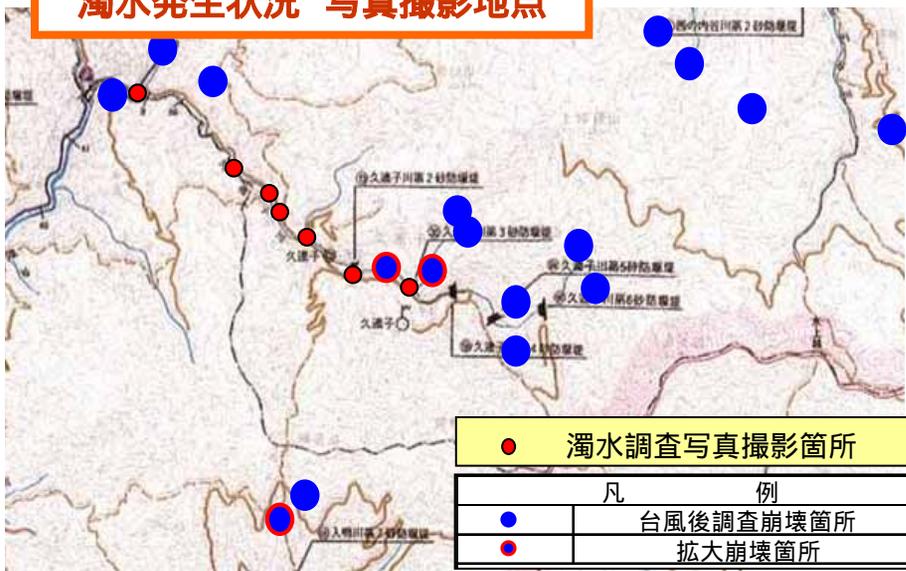
山の津谷川



平成17年9月12日に災害対策用ヘリコプターより撮影・主な崩壊箇所

久連子川では、多くの山腹崩壊が発生しましたが、砂防えん堤により土砂を捕捉しています。

濁水発生状況 写真撮影地点



久連子川
河岸侵食状況2.7km付近

H17.9.16 15:19 撮影

久連子川



久連子川・サカイノ谷川
合流点

H17.9.16 15:58 撮影



久連子川
第2砂防えん堤

H17.9.14 16:52 撮影

久連子川



* 砂防えん堤により土砂を捕捉

久連子川
第3砂防えん堤

H17.9.14 15:57 撮影

久連子川



* 砂防えん堤により土砂を捕捉

久連子川

H16年崩壊の増破

久連子川

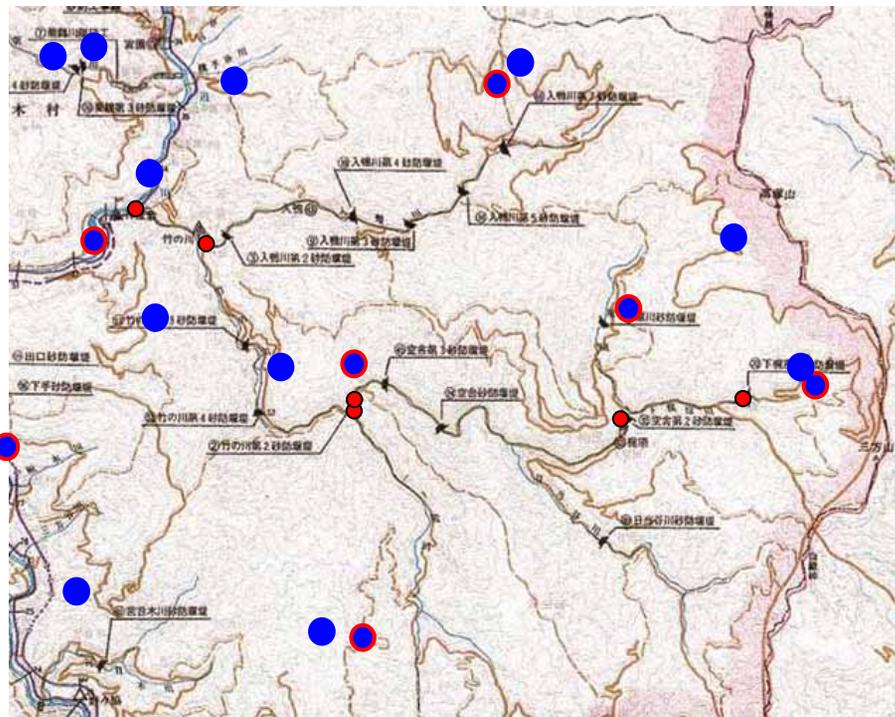
久連子川

久連子川

平成17年9月12日に災害対策用ヘリコプターより撮影・主な崩壊箇所

竹の川では、多くの山腹崩壊が発生しましたが、砂防えん堤により土砂を捕捉しています。

濁水発生状況 写真撮影地点



● 濁水調査写真撮影箇所

凡 例	
●	台風後調査崩壊箇所
●	拡大崩壊箇所



竹の川(一ノ股橋) H17.9.14 10:40 撮影



竹の川第2砂防えん堤

H17.9.14 10:43 撮影



* 砂防えん堤により土砂を捕捉

空舎第2砂防えん堤

H17.9.14 11:10 撮影



下梶原川砂防えん堤

H17.9.14 11:23 撮影



* 砂防えん堤により土砂を捕捉

竹の川



一ノ股川



一ノ股川

H16年崩壊の増破



竹の川

H16年崩壊の増破



平成17年9月12日に災害対策用ヘリコプターより撮影・主な崩壊箇所

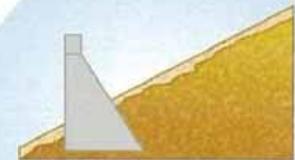
昭和38年の土砂災害



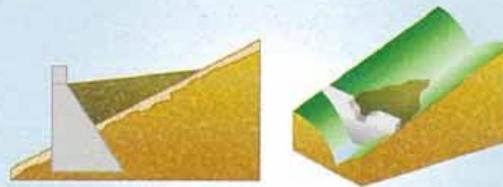
* 頭地地区（五木村）の川辺川は、洪水で流されてきた土砂で埋まりました。

砂防えん堤は、土砂が一度に流出するのを防ぎます。

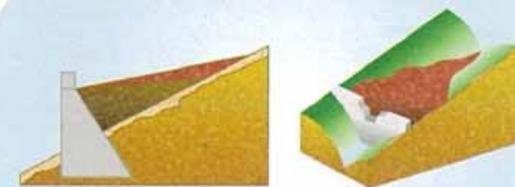
砂防えん堤の機能



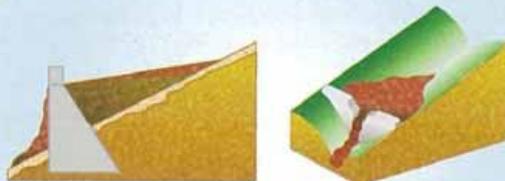
砂防えん堤完成時



① 砂防えん堤を造ると、上流からの土砂で満砂状態になり、川の勾配がゆるくなって、兩岸の山腹の崩壊を防ぐことができます。



② 大雨などにより、土砂が流れてきた場合、砂防えん堤はさらに多くの土砂を一時的に貯めます。



③ 一時的に砂防えん堤に貯められた余分な土砂はその後の川の流れによって徐々に下流へ流され①の状態に戻ります。この繰り返しにより土砂調節が半永久的に続きます。

